

ページが余りそうなので、続いて「吉野家コピペ」をどうぞ。

「吉野家コピペ」

昨日、近所の吉野家行ったんです。吉野家。そしたらなんか人がめっちゃくちゃいっぱい座れないんです。で、よく見たらなんか垂れ幕下がって、150円引き、とか書いてあるんです。もうね、アホかと。馬鹿かと。お前らな、150円引き如きで普段来てない吉野家に来てんじやねーよ、ボケが。150円だよ、150円。なんか親子連れとかもいるし。一家4人で吉野家か。おめでたな。よーし/パ/特盛頼んじやうぞー、とか言ってるの。もう見てらんない。お前らな、150円やるからその席空けろと。吉野家ってのはな、もっと殺伐としてるべきなんだよ。

Uの字テーブルの向かいに座った奴といつ喧嘩が始まってもおかしくない、刺すか刺されるか、そんな雰囲気がいんじやねーか。女子供は、すここんでろ。で、やっと座れたかと思ったら、隣の奴が、大盛つゆだくで、とか言ってるんです。あんな、つゆだくなんてきょうび流行んねーんだよ。ボケが。得意げな顔して何が、つゆだくで、だ。お前は本当につゆだくを食いたいのかと聞いた。い。問い詰めた。い。小1時間問い詰めた。い。お前、つゆだくって言いしたいだけちゃうんかと。吉野家通の俺から言わせてもらえば今、吉野家通の間での最新流行はやっぱ、ねきだく、これだ。大盛りねきだくキョウ。これが通の頼み方。ねきだくってのはねきが多めに入ってる。そんなわり肉が少なめ。これ。で、それに大盛りギョウ(玉子)。これ最強。

しかしこれを頼むと次から店員にマークされるという危険も伴う、諸刃の剣。素人にはお薦め出来ない。まあお前らF素人は、牛鮭【ぎゅうしやけ】定食でも食ってなさいってこった。

<http://www2.diary.ne.jp/logdisp.cgi?user=69964&log=20010407>

現に、Aさんの職場でも、一番若い職人で34歳。「このままでは、伝統の技が絶えてしまう」と不安げだ。

そんなAさんたちパケット職人の心の慰めは、たまにプロバイダのユーザから届く電子メールだ。転送作業の担当時間の終わった後、たどたどしい筆跡で綴られた電子メールを見る職人さんの目は優しい。

「『転送してもらったパケットのおかげで、高価なソフトをIMK-1で交換できました。ありがト!!!』なんてのが来ると涙が出て来ますね。この仕事やっててよかった、と」

【ISP】UNIX板住人のプロバイダは?【アンケート】
<http://pc.2ch.net/test/read.cgi/unix/1036296514/77>

パケット職人をご存知だろうか。文明の最先端を行っているかのようなインターネットだが、実は人によるサービスにどうしても頼らなければならない部分というものが存在する。それがパケット転送作業であり、そのパケット転送作業を手作業で行っているのが、パケット職人と呼ばれる専門の職人さんである。今日、これを書いている今も、日夜職人さんたちはインターネットを文字通り、支えている。Aさん(56)は某大手プロバイダの設立時から、パケット転送職についている。「いやぁ、最初のころは大変でした。1パケット送るのにさえ大変な手間がかかったもんです。でも、技術の進歩は早いもので、あのころの何千倍ものパケットを一辺に転送できるようになりましたからねえ」後継者がいないのが悩みだと言う。最近ホームページ職人やフラッシュ職人になりたがる若者ばかりで、地味なパケット転送などやりたがらないのだそうだ。

日夜働き続ける プロバイダたち

～パケット職人の涙～

発行日：2007年08月14日

powered by NI-Lab.
<http://www.nilab.info/lab/minibook/>